

米に関するマンスリーレポート

(令和6年12月号)



うちの郷土料理
次世代に伝えたい大切な味

愛媛県 みかんずし

出典: 農林水産省「うちの郷土料理」
詳細情報を裏面で紹介

「米に関するマンスリーレポート（マンレポ）」とは

⇒ 米に関する価格や需給の動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表しています。需要に応じた生産・円滑な米取引に役立てていただくことを目的としています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬公表。公表日の2営業日前までに入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあり得ます。

データはどう読み解けばいいの？

そんなときは、「ここが分からない！マンレポ」をチェック！

https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

うちの郷土料理

次世代に伝えたい大切な味

愛媛県

みかんずし

主な伝承地域

愛媛県 南予地方

主な使用食材

みかんジュース、米

歴史・由来・関連行事

太陽の光と潮風をいっぱい浴びて育つ愛媛みかんは、全国トップクラスの生産量を誇る。自然条件がうまく重なることで、甘さと酸味のバランスが良い美味しいみかんとなる。この地域は、瀬戸内海が目の前にあり、段々畑にみかんの花が咲く風光明媚な風景が広がる。美味しいみかんができる理由は、まさにここにある。

愛媛県南部の地域では希少であった米酢の代わりに酸味と香味が強いかぼすやみかんなど柑橘果汁を使ってつくった郷土料理が「みかんずし」であり、商品にならないみかんを使った「みかんご飯」がルーツともいわれている。地元の学校給食ではオレンジジュースで炊いたご飯が出されており、それがテレビで紹介され話題になり、愛媛県では「蛇口からミカンジュースが出る」という都市伝説さえある。この蛇口は松山市内にある「えひめ愛顔の観光物産館」や松山空港で楽しむことができる。蛇口をひねると、そこからみかんジュースが注がれる愛媛県ならではの光景だ。

食習の機会や時季

お祝いの席やおもてなしに登場する。愛媛県はみかん以外にも季節ごとにさまざまな柑橘がつくられていて、年間を通して料理に使用されている。酸味は酢の代用になり、ビタミンなども豊富。きれいな色は食欲増進につながる。

飲食方法

米をみかん生ジュースで炊くが、ごはんにみかんの甘味が加わるので合わせ酢の砂糖を少し控えるのがポイント。トッピングにさまざまな具材を合わせ彩りよくして食べる。みかんごはんを油揚げに詰めた「みかんいなり」もあり、甘辛い油揚げとみかんの爽やかな酸味が後をひく美味しさである。

材料（10人分）

・ 米	1升	・ 干ししいたけ	3枚
・ みかん生ジュース	約1L	・ 人参	1/3本
・ 水	約1L	・ ごぼう	1本
・ みかんの皮	適量	・ 薄揚げ	1枚
・ 魚	適量	・ 白ごま	適量
・ れんこん	適量	・ 【調味料A（合わせ酢）】 酢	200ml
・ きぬさや	適量	・ 【調味料A（合わせ酢）】 砂糖	160g
・ かまぼこ	適量	・ 【調味料A（合わせ酢）】 塩	12g

作り方

- 1 米はみかんと生ジュースと水を半々の割合で炊く。
- 2 魚は塩をふり、酢でしめる。
- 3 れんこんは砂糖、塩、酢で味付けする。
- 4 きぬさやは塩ゆでする。
- 5 干ししいたけ、ごぼう、薄揚げ、人参、みかんの皮を入れて煮る。
- 6 ごはんに調味料Aと具、白ごまを混ぜる。
- 7 かまぼこを切り、手順3～5と一緒にすし飯の上に飾り付ける。
- 8 ※ごはんを炊くときに、みかんジュースのみにすると焦げやすい。ごはんにみかんの甘みが加わるので、合わせ酢の砂糖を少し控える。

レシピ提供元名：愛媛県農山漁村生活研究協議会
※レシピは地域・家庭によって違いがあります。

目次（令和6年12月号）

特集

1 令和6年産水稻の収穫量

農林水産省(統計情報)HP

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5

特集-1

2 農林水産省補助事業「業務用米推進プロジェクト」登録者、絶賛募集中です！

特集-10

1 米の民間在庫情報

各産地の米の民間在庫数量は、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）の在庫量と年間玄米仕入数量4,000トン以上の販売段階（米卸等の販売業者の在庫量）を対象に調査し、その合計（出荷段階＋販売段階）の数値も合わせて公表しています。

集荷数量が概ね確定する1月以降の在庫数量は、販売に伴って減少していくので、その変化を見ることにより、販売状況を読み取ることができます。

1 民間在庫の推移

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 全国段階の民間在庫の推移(うるち米)(速報)

在庫-1

Excel

(2) 産地別民間在庫の状況(速報)

在庫-5

Excel

(3) 令和5・6年産の産地別民間在庫の推移(うるち米)(速報)

在庫-6

Excel

2 米の価格情報

相対（あいたい）取引価格

米については、全農等の出荷業者と卸売業者等との間で、年間を通じて「相対取引」が行われています。

このため、農林水産省では、年間の玄米仕入量5,000トン以上の全国出荷団体等を対象に、指標となる各産地の上位2～3銘柄（令和6年産米：118産地品種銘柄）について、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格・数量を毎月調査し、米の取引価格の代表となる指標の一つとして公表しています。

1 相対取引価格・数量

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 年産別の相対取引価格(速報)

価格-1

(2) 相対取引価格・数量(令和6年産米、産地品種銘柄別、令和6年11月分)(速報)

価格-3

Excel

(3) 相対取引価格(月別・年産平均価格)(令和5・6年産米、産地品種銘柄別)(速報)

価格-5

Excel

2 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和6年11月分)

価格-7

米穀安定供給確保支援機構HP

<https://www.komenet.jp/>

3 米の契約・販売情報

産地別事前契約数量は、米の播種が始まる前に、契約書や確認書等によりあらかじめ取引されることが決定している数量で、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）からの報告を産地別に取りまとめたものです。例えば、仕入（集荷）計画数量に占める事前契約数量の比率が高い産地では、取引数量の多くを播種前に契約し、需要に応じた生産に向けた取組が進められていることがうかがえます。

1 事前契約(播種前契約)の取組状況

(1) 近年の事前契約(播種前契約)数量の推移

契約-1

(2) 令和5・6年産米の産地別事前契約(播種前契約)の取組状況(速報)

契約-2

Excel

2 令和6年産米の産地別契約・販売状況

契約-3

Excel

(累計、うるち米、令和6年10月末現在)(速報)

3 令和6年産備蓄米の政府買入入札結果

契約-6

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kaiire/index.html>

4 令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)

(1) 主食用米及び戦略作物等の作付状況

契約-7

(2) 令和6年産の水田における都道府県別の作付状況

契約-8

4 消費の動向

1 米の消費動向(米穀機構による調査)

米穀安定供給確保支援機構HP <https://www.komenet.jp/>

消費-1

2 購入数量・支出金額の推移(家計調査)

総務省統計局HP <https://www.stat.go.jp/data/index.html>

消費-4

3 消費者物価指数の推移

消費-6

4 小売物価統計の推移

消費-7

5 米穀販売事業者における販売数量及び販売価格の動向(速報)

消費-8

6 小売価格・販売数量等の推移(POSデータ)

消費-9

5 輸出入の動向

1 コメ・コメ加工品の輸出実績

(1) コメ・コメ加工品の輸出実績の推移

輸出入-1

(2) 商業用の米の輸出数量及び金額の推移

輸出入-2

(3) 2024年上半期のコメの輸出実績の主な増加要因

輸出入-3

(4) 米菓の輸出数量及び金額の推移

輸出入-4

(5) 日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移

輸出入-5

(6) 包装米飯(パックご飯)等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-6

(7) 米粉の輸出数量及び金額の推移

輸出入-7

(8) 米粉麺等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-8

2 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

輸出入-9

3 MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

輸出入-11

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/boueiki/nyusatu/index.html>

4 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-12

5 SBS輸入米の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-13

6 CPTPP・国別枠の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-14

6 主食用米以外の情報

1 加工用米及び新規需要米等の生産状況

(1) 加工用米の生産量

主食外-1

(2) 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移

主食外-1

(3) 令和6年産 都道府県別の生産状況

主食外-2

(4) 加工用米及び新規需要米における多収性品種

主食外-3

(5) 新規需要米における米粉用向け専用品種

主食外-3

2 米加工品の状況

(1) 主な米加工品の生産状況

主食外-4

(2) 令和3米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況(推計)

主食外-5

(3) 加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移

主食外-6

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

主食外-7

(2) 日本酒原料米の使用状況

主食外-7

(3) 酒造好適米の生産量

主食外-8

(4) 酒造好適米の需要量

主食外-8

「米に関するマンスリーレポート」では、米に関する価格や需給の動向に係るデータ・情報をより多くの方に、かつ、より有効に活用していただけるよう、情報の整理方法、提供方法等を見直しました。
また、当省ホームページでの公表に際しては、本編・資料編に加え、カテゴリ別にも整理して掲載するとともに一部データ資料については、エクセルによる提供も開始しましたので、ぜひご活用ください。

令和6年12月10日公表

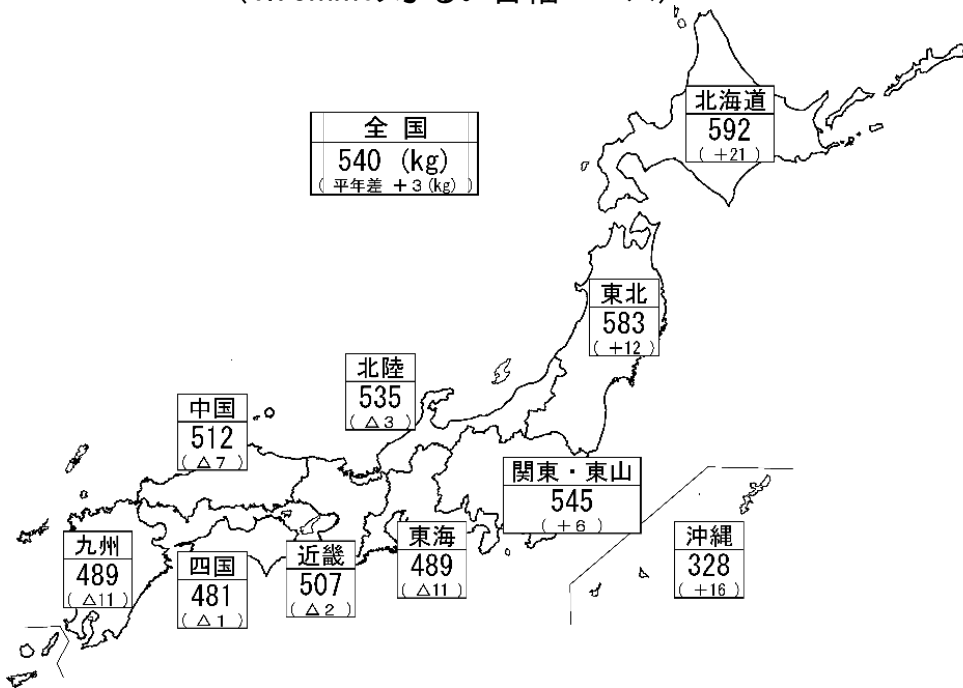
作物統計調査 令和6年産水稻の収穫量

— 水稻の収穫量(主食用)は679万2,000t —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積(子実用)は135万9,000ha(前年産に比べ1万5,000ha増加)となった。うち主食用作付面積は125万9,000ha(同1万7,000ha増加)となった。
- 2 水稻の全国の10a当たり収量は540kgと見込まれる。
これは、全国的にはおおむね天候に恵まれたためである。なお、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足、8月以降の記録的な高温等の影響により収量が低下した。
- 3 以上の結果、収穫量(子実用)は734万5,000t(前年産に比べ18万t増加)と見込まれる。このうち、主食用の収穫量は679万2,000t(同18万2,000t増加)と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふりい目幅ベースの全国の作況指数は101と見込まれる。

図1 水稻の全国農業地域別10a当たり収量
(1.70mmのふりい目幅ベース)



- 水稻の作付面積(子実用)とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積(飼料用米・WCS用稲等を含む。)を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である(特集-7ページ【参考1】参照)。
- 陸稲の作付面積(子実用)とは、青刈り面積を含まない面積である。
- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふりい目幅で選別された玄米の重量である。
- 沖縄県については、一部収穫を終えていないため、収穫の状況によっては今後変動することがある。確定した数値はホームページに掲載(令和7年2月予定)する。

○ 本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5 】

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45％）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（特集-8ページ【参考2】参照）。
農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（全国）

単位：％							
年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和元年産	100.0	0.7	1.4	1.9	2.8	15.3	77.9
2	100.0	0.7	1.4	1.9	2.9	14.4	78.7
3	100.0	0.8	1.4	1.8	2.8	14.7	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	14.9	77.9
5	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
6（概数値）	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
平 均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.7	13.9	79.6
対平均差（ポイント）	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.0	2.5

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。
2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

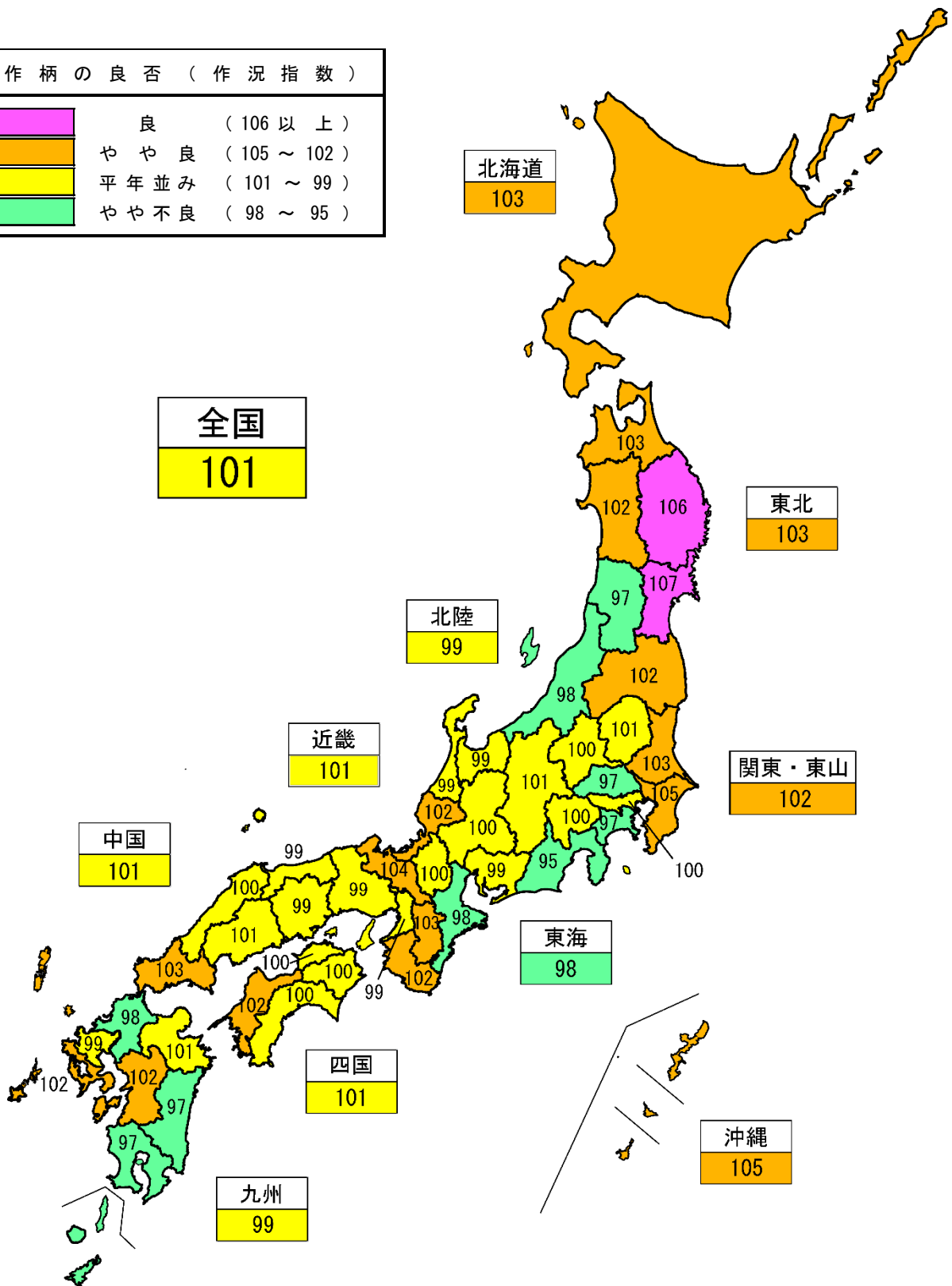
表 2 ふるい目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（全国）

年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上			
						1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和元年産	10 a 当たり収量	kg	528	524	517	507	492	411
	収穫量（子実用）	t	7,762,000	7,708,000	7,599,000	7,452,000	7,234,000	6,047,000
2	10 a 当たり収量	kg	531	527	520	510	494	418
	収穫量（子実用）	t	7,763,000	7,709,000	7,600,000	7,452,000	7,227,000	6,109,000
3	10 a 当たり収量	kg	539	535	527	517	502	423
	収穫量（子実用）	t	7,563,000	7,502,000	7,397,000	7,260,000	7,049,000	5,937,000
4	10 a 当たり収量	kg	536	531	523	513	497	418
	収穫量（子実用）	t	7,269,000	7,204,000	7,095,000	6,956,000	6,746,000	5,663,000
5	10 a 当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量（子実用）	t	7,165,000	7,122,000	7,050,000	6,957,000	6,807,000	6,076,000
6 （概数値）	10 a 当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量（子実用）	t	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
	対前年比 （収穫量（子実用））	％	103	102	102	102	101	99

注：1 ふるい目幅別10 a 当たり収量とは、全国の10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、全国の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図2 水稻の全国農業地域・都道府県別作況指数
(農家等が使用しているふり目幅ベース)

作柄の良否(作況指数)		
	良	(106以上)
	やや良	(105～102)
	平年並み	(101～99)
	やや不良	(98～95)



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふり目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量
(全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量			収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 （主食用）	作況指数		
	実 数	前年産との比較		実 数	平年 との比較	前年産 との比較	実 数	前年産との比較						
		①	対差					対比	③＝①×②				対差	対比
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t			
全 国	1,359,000	15,000	101	540	3	7	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000	101		
北 海 道	95,000	1,700	102	592	21	13	562,400	22,200	104	83,700	495,500	103		
東 北	358,400	9,300	103	583	12	14	2,091,000	103,000	105	319,800	1,865,000	103		
北 陸	197,000	△ 700	100	535	△ 3	22	1,053,000	38,000	104	175,800	938,800	99		
関東・東山	248,000	8,500	104	545	6	1	1,352,000	50,000	104	235,000	1,282,000	102		
東 海	86,600	△ 200	100	489	△ 11	△ 5	423,100	△ 5,600	99	83,400	407,500	98		
近 畿	94,000	△ 700	99	507	△ 2	4	476,900	800	100	90,600	459,600	101		
中 国	93,100	△ 900	99	512	△ 7	△ 2	476,900	△ 6,200	99	90,400	463,000	101		
四 国	42,700	△ 400	99	481	△ 1	△ 1	205,200	△ 2,500	99	42,300	203,600	101		
九 州	143,700	△ 1,600	99	489	△ 11	△ 8	703,000	△ 19,000	97	138,200	676,000	99		
沖 縄	599	23	104	328	16	7	1,960	110	106	557	1,830	105		

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 10 a 当たり収量の平年との比較は、10 a 当たり平年収量との比較である。

4 収穫量については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

6 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 ・ 都道府県		作付面積（子実用）			10 a 当たり 収 量 ②	農家等が使用している ふるい目幅で選別			
						実 数 ①	前年産との比較		最も多い 使用割合 の 目 幅 ③
		ha	ha	%			kg	mm	
全 国	(1)	1,359,000	15,000	101	540	…	519	513	101
北 海 道	(2)	95,000	1,700	102	592	1.90	562	544	103
青 森	(3)	42,400	1,900	105	623	1.90	598	578	103
岩 手	(4)	45,500	300	101	569	1.90	546	517	106
宮 城	(5)	62,800	1,900	103	583	1.90	550	516	107
秋 田	(6)	84,200	1,200	101	582	1.90	552	542	102
山 形	(7)	60,800	△ 200	100	583	1.90	553	570	97
福 島	(8)	62,700	4,300	107	569	1.85	546	534	102
茨 城	(9)	62,500	2,800	105	542	1.85	523	506	103
栃 木	(10)	53,000	1,600	103	540	1.85	521	515	101
群 馬	(11)	14,300	400	103	499	1.80	483	482	100
埼 玉	(12)	29,600	1,200	104	476	1.80	463	479	97
千 葉	(13)	50,600	2,900	106	569	1.80	559	533	105
東 京	(14)	107	△ 4	96	414	1.80	405	404	100
神 奈 川	(15)	2,840	△ 10	100	481	1.80	463	475	97
新 潟	(16)	116,200	400	100	536	1.85	515	524	98
富 山	(17)	35,000	△ 200	99	540	1.90	515	519	99
石 川	(18)	22,300	△ 1,100	95	521	1.90	495	498	99
福 井	(19)	23,500	200	101	531	1.90	494	483	102
山 梨	(20)	4,680	△ 70	99	534	1.85	518	516	100
長 野	(21)	30,300	△ 300	99	620	1.85	604	599	101
岐 阜	(22)	21,100	400	102	483	1.80	474	475	100
静 岡	(23)	14,500	△ 600	96	484	1.85	472	499	95
愛 知	(24)	26,200	400	102	497	1.85	480	484	99
三 重	(25)	24,900	△ 300	99	485	1.85	468	478	98
滋 賀	(26)	28,400	100	100	517	1.90	484	483	100
京 都	(27)	13,600	△ 200	99	527	1.85	512	492	104
大 阪	(28)	4,290	△ 150	97	483	1.80	472	478	99
兵 庫	(29)	34,000	△ 200	99	491	1.85	475	478	99
奈 良	(30)	8,000	△ 250	97	526	1.80	517	500	103
和 歌 山	(31)	5,680	△ 100	98	506	1.80	500	491	102
鳥 取	(32)	11,800	△ 100	99	502	1.85	491	495	99
島 根	(33)	15,900	△ 200	99	505	1.90	485	484	100
岡 山	(34)	28,000	200	101	510	1.85	496	499	99
広 島	(35)	20,600	△ 500	98	526	1.85	515	508	101
山 口	(36)	16,800	△ 300	98	513	1.85	497	481	103
徳 島	(37)	9,890	140	101	470	1.80	462	462	100
早 期 栽 培	(38)	3,810	60	102	454	1.80	447	453	99
普 通 栽 培	(39)	6,070	60	101	480	1.80	472	467	101
香 川	(40)	9,820	△ 380	96	491	1.80	481	479	100
愛 媛	(41)	12,700	△ 100	99	502	1.80	491	482	102
高 知	(42)	10,300	0	100	453	1.80	444	445	100
早 期 栽 培	(43)	5,790	20	100	487	1.80	479	470	102
普 通 栽 培	(44)	4,480	△ 70	98	409	1.80	400	413	97
福 岡	(45)	32,600	△ 200	99	467	1.85	442	452	98
佐 賀	(46)	22,400	200	101	505	1.85	482	487	99
長 崎	(47)	9,420	△ 580	94	487	1.80	472	465	102
熊 本	(48)	29,700	△ 300	99	516	1.85	487	479	102
大 分	(49)	18,000	△ 300	98	491	1.85	459	454	101
宮 崎	(50)	14,500	△ 200	99	481	1.80	467	482	97
早 期 栽 培	(51)	5,410	△ 140	97	470	1.80	461	471	98
普 通 栽 培	(52)	9,100	△ 70	99	487	1.80	470	489	96
鹿 児 島	(53)	17,100	△ 100	99	470	1.80	454	470	97
早 期 栽 培	(54)	3,860	△ 70	98	446	1.80	437	452	97
普 通 栽 培	(55)	13,200	△ 100	99	477	1.80	458	476	96
沖 縄	(56)	599	23	104	328	1.80	321	305	105
第 一 期 稲	(57)	445	4	101	366	1.80	360	343	105
第 二 期 稲	(58)	154	19	114	219	1.80	207	182	114

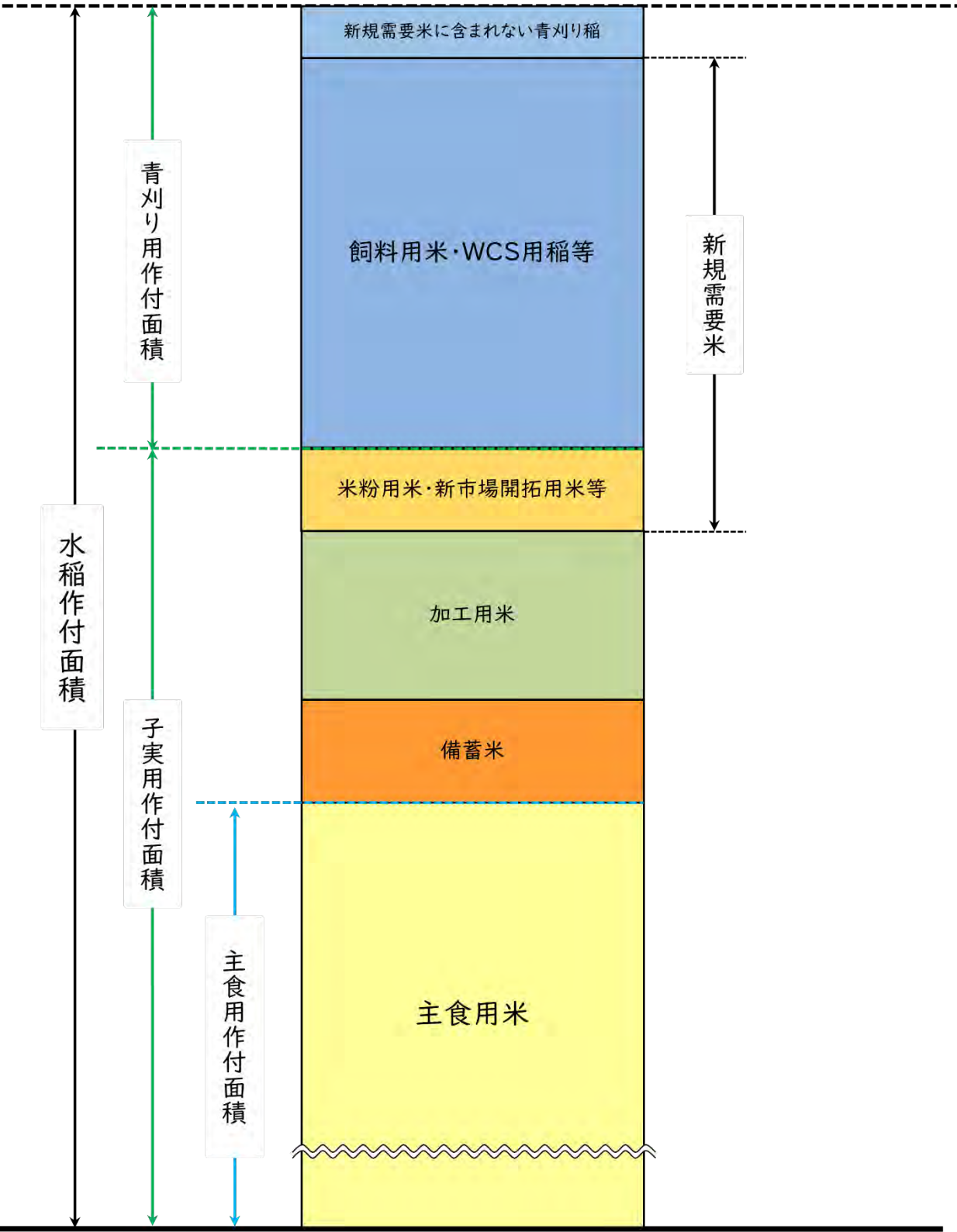
注： 1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積(飼料用米・WCS用稲等を含む。)を除いた面積である。
2 10a当たり収量(②)、収穫量(子実用)(⑦)及び収穫量(主食用)(⑨)は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 10a当たり収量(④)、10a当たり平年収量(⑤)及び作況指数(⑥)については、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
4 収穫量については、都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

全 国 ・ 都道府県		収穫量（子実用）			主 食 用 作 付 面 積 ⑧	収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑨＝⑧×②
		実 数 ⑦＝①× ②	前年産との比較			
			対差	対比		
		t	t	%	ha	t
全 国	(1)	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000
北 海 道	(2)	562,400	22,200	104	83,700	495,500
青 森	(3)	264,200	15,500	106	37,200	231,800
岩 手	(4)	258,900	9,800	104	43,100	245,200
宮 城	(5)	366,100	21,400	106	58,400	340,500
秋 田	(6)	490,000	31,800	107	72,200	420,200
山 形	(7)	354,500	△ 4,800	99	52,400	305,500
福 島	(8)	356,800	29,200	109	56,500	321,500
茨 城	(9)	338,800	22,400	107	59,900	324,700
栃 木	(10)	286,200	2,000	101	49,000	264,600
群 馬	(11)	71,400	1,300	102	12,800	63,900
埼 玉	(12)	140,900	3,400	102	28,400	135,200
千 葉	(13)	287,900	22,200	108	48,300	274,800
東 京	(14)	443	△ 22	95	107	443
神 奈 川	(15)	13,700	△ 500	96	2,840	13,700
新 潟	(16)	622,800	31,100	105	101,400	543,500
富 山	(17)	189,000	3,100	102	31,200	168,500
石 川	(18)	116,200	△ 5,000	96	21,200	110,500
福 井	(19)	124,800	8,300	107	21,900	116,300
山 梨	(20)	25,000	△ 700	97	4,590	24,500
長 野	(21)	187,900	0	100	29,000	179,800
岐 阜	(22)	101,900	1,700	102	19,600	94,700
静 岡	(23)	70,200	△ 8,200	90	14,400	69,700
愛 知	(24)	130,200	6,400	105	25,000	124,300
三 重	(25)	120,800	△ 5,500	96	24,500	118,800
滋 賀	(26)	146,800	4,200	103	27,400	141,700
京 都	(27)	71,700	2,400	103	13,000	68,500
大 阪	(28)	20,700	△ 1,600	93	4,290	20,700
兵 庫	(29)	166,900	△ 3,100	98	32,200	158,100
奈 良	(30)	42,100	△ 600	99	7,960	41,900
和 歌 山	(31)	28,700	△ 500	98	5,680	28,700
鳥 取	(32)	59,200	2,000	103	11,600	58,200
島 根	(33)	80,300	△ 2,600	97	15,700	79,300
岡 山	(34)	142,800	△ 100	100	27,200	138,700
広 島	(35)	108,400	△ 4,500	96	20,100	105,700
山 口	(36)	86,200	△ 1,000	99	15,800	81,100
徳 島	(37)	46,500	800	102	9,790	46,000
早 期 栽 培	(38)	17,300	400	102	...	...
普 通 栽 培	(39)	29,100	200	101	...	...
香 川	(40)	48,200	△ 2,400	95	9,770	48,000
愛 媛	(41)	63,800	△ 800	99	12,700	63,800
高 知	(42)	46,700	△ 100	100	10,100	45,800
早 期 栽 培	(43)	28,200	200	101	...	...
普 通 栽 培	(44)	18,300	△ 600	97	...	...
福 岡	(45)	152,200	△ 5,200	97	32,200	150,400
佐 賀	(46)	113,100	△ 2,600	98	22,000	111,100
長 崎	(47)	45,900	△ 2,900	94	9,360	45,600
熊 本	(48)	153,300	△ 2,100	99	28,800	148,600
大 分	(49)	88,400	△ 1,500	98	17,800	87,400
宮 崎	(50)	69,700	△ 1,700	98	12,400	59,600
早 期 栽 培	(51)	25,400	△ 1,600	94	...	...
普 通 栽 培	(52)	44,300	△ 200	100	...	...
鹿 児 島	(53)	80,400	△ 3,000	96	15,600	73,300
早 期 栽 培	(54)	17,200	△ 1,200	93	...	...
普 通 栽 培	(55)	63,000	△ 2,200	97	...	...
沖 縄	(56)	1,960	110	106	557	1,830
第 一 期 稲	(57)	1,630	90	106	...	...
第 二 期 稲	(58)	337	31	110	...	...

5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、作期別の備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

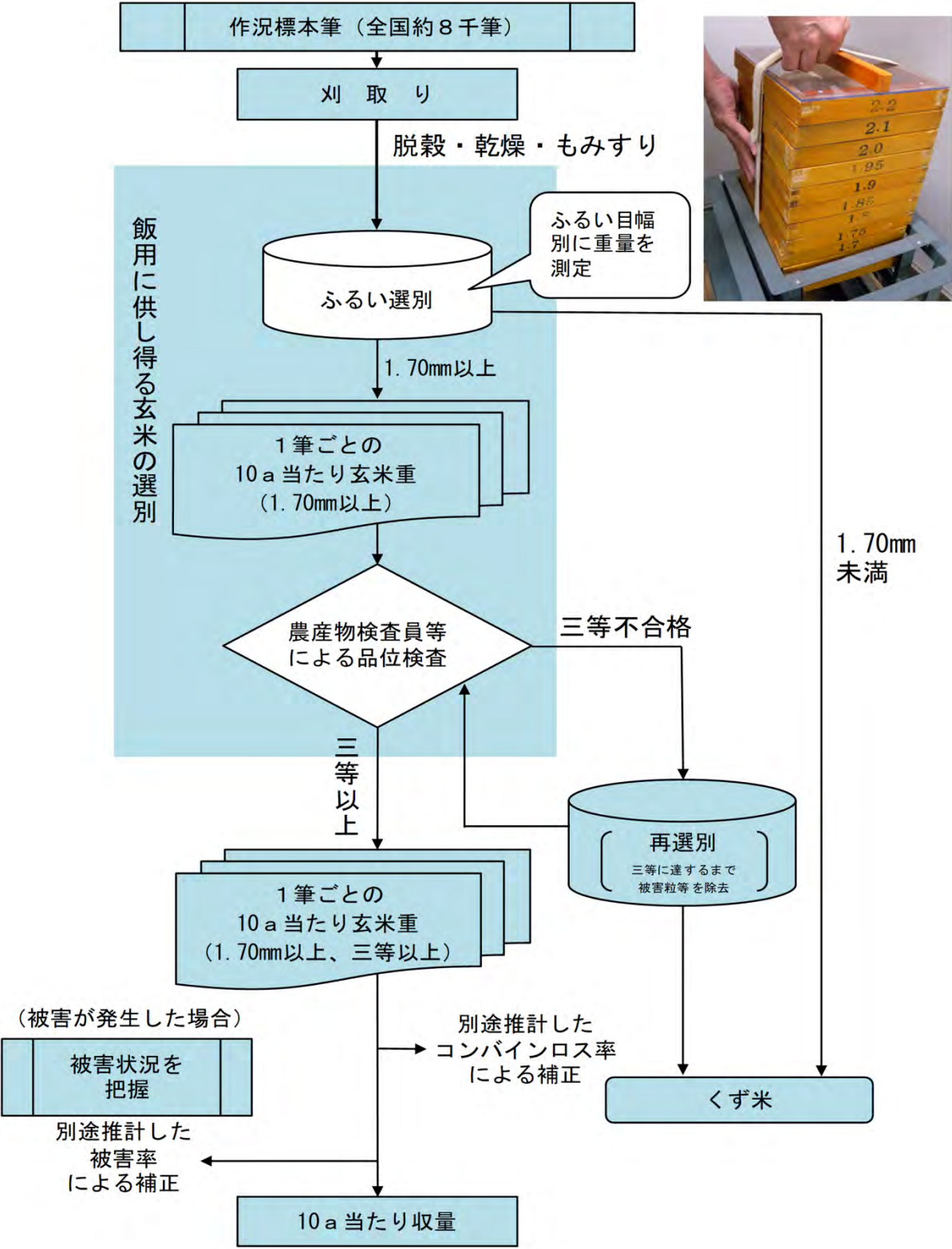
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



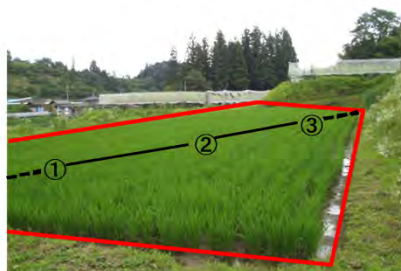
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

農林水産省補助事業「業務用米推進プロジェクト」登録者、絶賛募集中です！

当プロジェクトでは、業務用米（中食・外食用、米粉用、加工用）の需要に対応すべく、多収米などを活用した低コスト安定供給体制の構築を推進します。

登録をすれば、全国の生産者、卸業者、実需者等との対面及び特設サイト上での交流が可能になるほか、「多収米の品種、栽培技術」「低コスト生産の経営モデル」「書面契約のためのノウハウ」などの情報を発信いたしますので、情報収集の場としてもご利用いただけます。ぜひご登録ください。

事業でできること

1.業務用米に関する情報にアクセス

多収米の品種・栽培技術、低コスト生産の経営モデル、書面契約のノウハウ等の情報を発信します。

2.ネットワーク形成

特設サイト上で他の参加者とのコンタクトができます。

3.イベント「業務用米セミナー&交流会」

各種セミナーや多収米などの試食コーナーなどを実施します。また参加者の交流の場を設けます。

登録について

プロジェクトの登録は無料です！

詳細、登録はこちら👉

<https://www.gyoumumai-project.com/>



○主 催 株式会社 グレイン・エス・ピー
○お問合せ先 「令和6年度業務用米推進プロジェクト」事務局
株式会社グレイン・エス・ピー 末田・砂金
OT E L 03-3816-0672

事業の流れ

1

登録

登録を希望する方は特設サイト（<https://www.gyoumumai-project.com/>）にある「登録申込フォーム」よりお申込みください。ご登録いただいた内容に基づき、事務局において「登録者リスト（登録者の一覧）」を作成します。
なお、登録者リストは、ご登録いただいた皆様（生産者、卸業者、実需者すべて）に原則公開されます。（登録時にリストへの掲載可否を選択できます。）

2

登録完了

ご登録いただいた内容を事務局で確認します。不明な点等がありましたら、事務局より連絡させていただく場合がありますのでご了承ください。事務局での確認が完了しましたら、登録完了のお知らせがメールで届きます。

3

登録者リスト
のお届け

12月上旬頃、今回プロジェクトに登録した方の元に、登録者リストが掲載されたマイページのURLがメールで送付されます。

4

イベントへの
参加、
コンタクトの
申込み

●イベント「業務用米セミナー&交流会」を実施いたしますので、ぜひご参加ください。
●登録者は登録者リストにコンタクトを希望する相手がいた場合、マイページよりコンタクトの申込みができます。その際、登録いただいた登録者の情報も相手に届けられます。コンタクトの申込みを受けた方は、最初はマイページにてやりとりを行ってください。以降は直接のやりとりも可能です。

5

アンケート
調査

2月下旬頃、今回登録された方に事務局よりアンケート調査の依頼を実施します。コンタクトの状況などをお聞きしますので必ずご回答をお願いいたします。

対面イベント

実施日時及び会場

東京会場

開催日：2024年12月20日（金）13:00～17:00

場所：日本橋プラザ展示ホール（中央区日本橋2-3-4）

大阪会場

開催日：2025年1月23日（木）13:00～17:00

場所：新大阪ワシントンホテルプラザ（大阪市淀川区西中島5-5-5）

実施内容（両会場共通）

●セミナー

1. 多収米の品種や特性について
2. 多収米を活用した低コスト生産のモデルについて
3. 書面契約のノウハウについて

●相談コーナー

セミナー講師による個別相談コーナー

●試食コーナー

多収米などの試食

●交流コーナー

参加者が自由に交流できるスペースを設けます。

実施スケジュール

13:00～13:15	挨拶、プロジェクトの説明	試食コーナー 相談コーナー 交流コーナー
13:15～13:45	セミナー①	
13:45～14:15	セミナー②	
14:15～14:30	休憩	
14:30～15:00	セミナー③	
17:00	閉会	

※実施内容、スケジュールは変更になる場合がございます。最新の情報を特設サイトに掲載しますので、ご確認をお願いいたします。

1 米の民間在庫情報

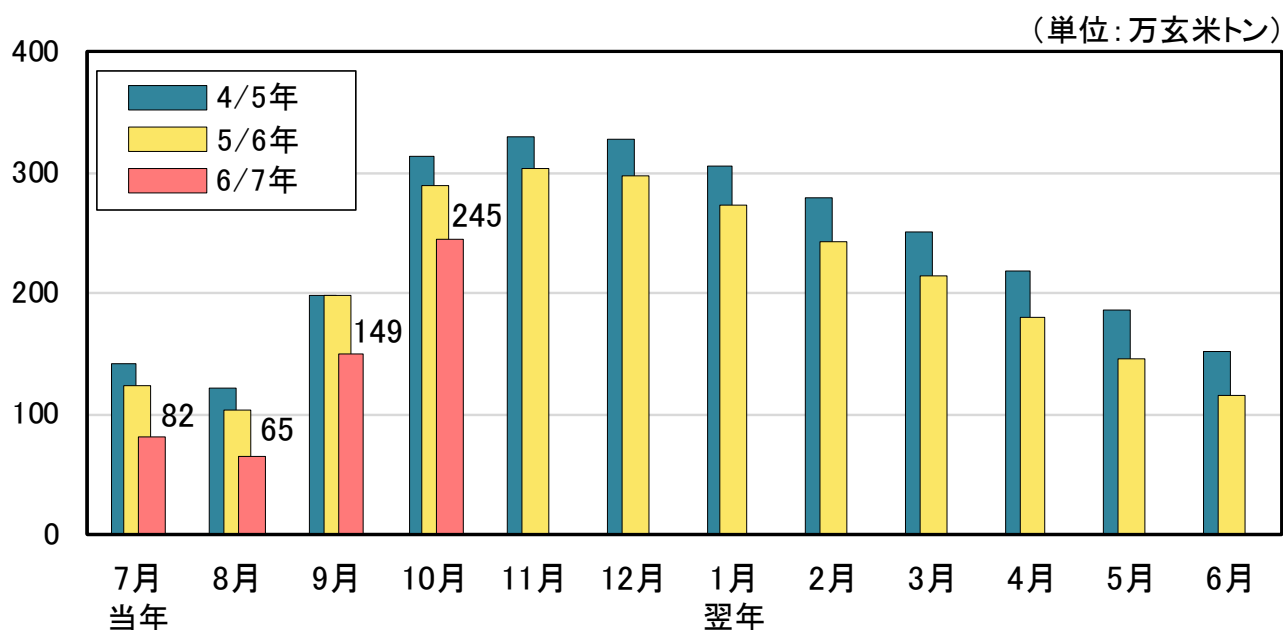
1 民間在庫の推移

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

民間在庫の累年データについては、農林水産省ホームページの「農産」の分野別分類「米（稲）・麦・大豆」、品目別分類「米の相対取引価格・数量、契約・販売状況、民間在庫の推移等」から御覧いただけます。
【 <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html> 】

- 令和6年10月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、対前年同月差▲45万トンの245万トンとなっている。また、流通段階別でみると出荷段階で対前年同月差▲48万トンの187万トン、販売段階で+4万トンの57万トンとなっている。

※ 出荷・販売段階別の在庫量は、「在庫-3、4」を参照。



【令和6年10月末民間在庫量のポイント】

- 毎月公表している民間在庫量は、①500トン以上の集荷業者、②4,000トン以上の卸売業者が対象。およそ民間の流通在庫全体の75%をカバー(下記参考参照)。
- 令和6年10月末の民間在庫量は、前月公表値から修正が生じた9月末の対前年差▲51万トンから▲45万トンと減少幅は縮小したものの、10月末在庫としては近年では最も低い水準の245万トンとなった。
- これについては、令和6年産の生産量(10月25日現在)が679万トンと前年産より18万トン多い中で、出荷段階で対前年差▲48万トン、販売段階で同+4万トンとなっていることを踏まえれば、報告対象となっている集荷業者の集荷が前年に比べ減少していることが主要因と考えられる。

※ 在庫率は上記対象事業者の在庫量を全体の需要で割ったもの。

(万トン)

10月末民間在庫量・在庫率



※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

○ 出荷・販売段階別の民間在庫量 (単位：万トン)

	6年9月末	6年10月末
出荷段階	113	187
対前年差	▲49	▲48
販売段階	36	57
対前年差	▲2	4
合計	149	245
対前年差	▲51	▲45

※出荷段階は玄米仕入数量が500t以上の集荷業者等
販売段階は玄米仕入数量が4,000t以上の卸売業者等

○ 集荷業者の集荷数量 (単位：万トン)

	集荷数量	前年比
6年10月末	159.6	91%
5年10月末	174.9	

(参考) 毎月公表している民間在庫量の調査対象の範囲

	出荷段階	販売段階		生産段階
	年間取扱 500トン以上	年間取扱 4,000トン以上	年間取扱 500～ 4,000トン	
うるち米	【毎月調査ベース】 6月末在庫 11.5万トン ↓ 10月末在庫 24.5万トン			
もち米				

【米の基本指針ベース】
153万トン
(※6月末のみ調査)

【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)】

【出荷＋販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30 年 産 米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1 年 古 米 (29 年 産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2 年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
元 年 産 米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1 年 古 米 (30 年 産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3 年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
2 年 産 米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162
1 年 古 米 (元 年 産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7
3/4 年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
3 年 産 米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
1 年 古 米 (2 年 産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
4/5 年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
4 年 産 米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
1 年 古 米 (3 年 産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
5/6 年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
5 年 産 米	1	14	131	232	254	260	245	221	195	165	133	105
1 年 古 米 (4 年 産)	106	78	56	46	36	27	21	15	13	10	7	5
6/7 年	82	65	149	245								
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45								
6 年 産 米	1	13	112	214								
1 年 古 米 (5 年 産)	74	46	31	24								

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、
出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～6年6月である。
5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30 年 産 米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1 年 古 米 (29 年 産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/2 年	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109
対前年差	▲2	▲8	+8	+2	+5	+13	+9	+4	+1	+7	+11	+8
元 年 産 米	0	7	99	222	246	254	238	214	181	155	136	108
1 年 古 米 (30 年 産)	73	47	28	14	9	6	4	3	2	2	1	1
2/3 年	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132
対前年差	+10	+15	+23	+27	+27	+22	+26	+27	+33	+29	+24	+23
2 年 産 米	0	9	108	236	263	268	258	237	211	182	158	129
1 年 古 米 (元 年 産)	82	60	42	28	20	14	10	7	5	4	3	3
3/4 年	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139
対前年差	+22	+20	+27	+12	+13	+12	+10	+11	+9	+10	+7	+7
3 年 産 米	0	8	115	227	255	261	249	231	206	179	154	126
1 年 古 米 (2 年 産)	103	80	61	47	40	33	28	24	19	16	14	13
4/5 年	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
対前年差	+10	+8	▲12	▲15	▲21	▲20	▲20	▲20	▲22	▲20	▲20	▲18
4 年 産 米	0	9	97	208	231	239	228	210	185	160	136	110
1 年 古 米 (3 年 産)	103	78	58	44	36	29	24	19	14	11	9	7
5/6 年	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
5 年 産 米	0	10	113	200	220	225	212	190	163	134	108	81
1 年 古 米 (4 年 産)	86	61	42	30	24	17	13	10	6	4	3	2
6/7 年	58	44	113	187								
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲48								
6 年 産 米	0	9	90	172								
1 年 古 米 (5 年 産)	55	33	21	13								

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	30
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	▲1
30 年 産 米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1 年 古 米 (29 年 産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/2 年	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45
対前年差	±0	▲1	+2	+3	+4	+4	+4	+4	+5	+4	+5	+14
元 年 産 米	0	3	16	32	37	40	38	36	40	38	33	38
1 年 古 米 (30 年 産)	22	18	15	20	15	10	8	6	5	4	3	2
2/3 年	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41
対前年差	+10	+7	+6	+3	+2	+1	+1	+1	▲2	▲2	▲3	▲4
2 年 産 米	0	3	15	30	34	36	33	32	34	33	27	33
1 年 古 米 (元 年 産)	30	24	19	23	20	16	13	10	9	7	6	4
3/4 年	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32
対前年差	▲3	▲2	▲3	▲5	▲7	▲5	▲6	▲4	▲3	▲2	▲2	▲8
3 年 産 米	0	3	14	26	30	32	29	28	30	30	25	24
1 年 古 米 (2 年 産)	25	20	16	20	16	14	11	9	9	7	5	4
4/5 年	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	+1	+1	+2	+2	+1	±0
4 年 産 米	0	3	15	28	32	34	31	31	32	31	26	24
1 年 古 米 (3 年 産)	20	17	13	15	13	11	8	7	8	7	5	4
5/6 年	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
5 年 産 米	0	4	18	32	34	35	32	31	32	31	26	24
1 年 古 米 (4 年 産)	20	17	14	16	12	10	8	6	6	6	4	3
6/7 年	25	21	36	57								
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4								
6 年 産 米	0	4	23	41								
1 年 古 米 (5 年 産)	19	13	9	11								

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照